

(報告書様式 C)

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	愛 知 県
-------	-------

学校の概要 (平成 1 5 年 4 月現在)

学校名	佐屋町立佐屋小学校								
学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	4	4	3	2	24	32
児童数	129	117	127	127	126	106	7	739	

研究の概要

1 . 研究主題

一人一人がわかる楽しさを味わえる算数授業をめざして
少人数指導、TT指導を生かして

2 . 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・算数
児童の理解の状況に差が出やすい教科であり、系統性が強く、途中でつまずいたり、理解できない場合には、次への学習に大きな支障があるため。

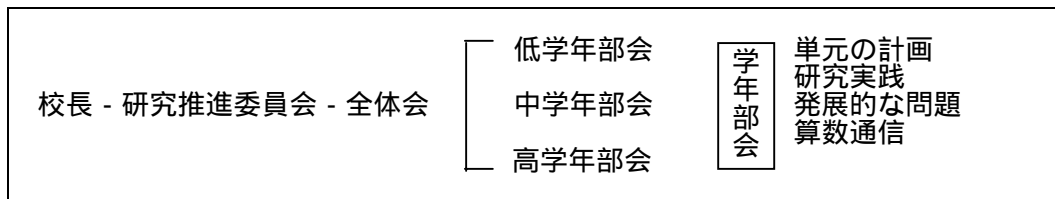
(2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	テーマ 一人一人がわかる楽しさを味わえる授業をめざして 仮説 基礎・基本の定着を図り、個に応じたきめの細かい指導を通して、どの子にもわかる楽しさを味わえる授業を展開すれば、「自己の考えを生かし、意欲をもって主体的に学ぶ子」を育てることができる。 研究内容・方法 ・ 評価規準表、補充的な問題と単元テストの作成する。 ・ 授業実践部で研究授業を行い研究の方向を探る。 ・ 習熟度別少人数指導を4・5年生、TT指導を1年生算数科で取り入れ、指導体制や指導法を研究する。 ・ 保護者への理解と協力を求めるため、算数通信を発行する。
----------------	---

平成 15 年度	テーマ 一人一人がわかる楽しさを味わえる授業をめざして 仮説 ・ 子どもたちの実態(習熟度の差)に応じた指導計画・指導方法を工夫していけば、「わかる授業」が成り立つ。 ・ 個に応じた「わかる授業」を重ねていけば、子どもたちの学習意欲を高めることができ、「確かな学力」の向上へとつながる。 研究の内容・方法 ・ 習熟度別少人数指導を3～6年生、TT指導を1・2年生の算数科で取り組み、全担任が研究授業実践を行い、力量の向上に努める。 ・ 補充的な問題・発展的な問題を作成し、蓄積し、データベース化する。 ・ 習熟度別の算数的活動を取り入れ、教材・教具を工夫する。 ・ 「つけ法」などにより、個のつまずきを把握し、次への指導に生かす。 ・ 評価規準表とそれに基づいて作成したテスト類を実践を通して、見直しをする。
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 一人一人がわかる楽しさを味わえる授業をめざして 仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの実態（習熟度の差）に応じた指導計画・指導方法を工夫していけば、「わかる授業」が成り立つ。 個に応じた「わかる授業」を重ねていけば、子どもたちの学習意欲を高めることができ、「確かな学力」の向上へとつながる。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年の枠を超えた習熟プリントとそれを使った習熟システムを確立する。 3年間のアンケートの集約と学力テストの評価をする。
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 「算数が好き」と答えた児童が76%あり、全国平均（60%弱）と比べて、昨年度から安定して高いレベルにある。
- 「習熟度別少人数指導」に対して、保護者の73%が継続を望み、99%が学力向上につながるという支持を得ている。
- 学力テスト<教研式CRT>の結果から、昨年は、3観点とも全国平均を下回っていたが、今年度は「考え方」の項目が、全国平均を上回るようになった。（平均点55.5 57.1）
- 「つけ法」を取り入れ、また毎時間「確認プリント」を行うことで、個の習熟度をつかむことができ、指導に生かすことができた。
- 低学年では、集中できない児童を支援したり、机間指導で個別指導したりするのに、TT指導がとても有効であることが分かった。
- 算数好きな児童が増えたことで、保護者の学力低下に対する不安を和らげることができた。

2. 今後の課題

- 単元の学習（指導）時間は、2コースとも同一時間という限られた条件のもとでは、基礎コースでは、指導時間が不足気味になる。学習内容の精選が課題である。
- 1学級を複数の教師が指導しているが、互いの評価の在り方の整合性を詰める。
- 授業の中で習熟が不十分な児童に対して、学年の枠を超え習熟できる場と時間を設定する。「おさらいプリント、システム」を確立する。

学力等把握のための学校としての取組

- 児童の学力状況の変容を捉えるため
 全学年；算数科 6月と2月 教研式標準学力検査（目標基準準拠検査）
- 児童の学習状況の変容を捉えるため
 全学年；算数学習への状況、習熟度別学習の状況などのアンケート調査
 5月と11月
- 保護者の理解を捉えるため
 5・6年保護者；習熟度別少人数指導の効果・期待のアンケート調査
 12月

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 全国算数・数学教育研究（愛知）大会で研究発表
平成15年8月5日（於 愛教大附小）
- ・ 海部・津島地区現職教育研究集会（算数部会）で研究発表
平成15年10月17日（於 佐屋町立永和小）
- ・ 学力向上フロンティアスクール授業公開
平成16年1月27日（於 本校）
研究報告書、評価規準表・テスト類をリンクしたCDを地区の各校へ配布
講演会 演題 「それぞれの学校の学力向上に向けて」
愛知教育大学 助教授 飯島康之
- ・ 学区の各家庭へ、各学年の算数通信を通して、啓発を行う。
- ・ HPの作成 http://www.saya_e.ed.jp/



次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無